

りす俱樂部

2017 年
5・6月合併号
第 251 号

同じ庭に咲く

色と形を競っていると思われたバラを見詰めていたら、お互に花びらの無事の開きを励まし助け合っている姿に見えて来た。「狭い庭ながらも狭いなりに、陽の光、地の糧、雨の恵み、風の訪れを分け合って生きています」、赤いバラがささやいた気がする。

弁護士 福井大海



長野県消防防災航空隊の

事故によせて

りすシステム新事業担当顧問 若槻 達夫

最近、大変ショックな経験をしました。3月5日、長野県消防防災航空隊の隊員が長野県のヘリコプター「アルプス」で訓練中の事故で、搭乗していた9名全員が亡くなったことです。

ニュース報道の一部を引用しますと、「長野県の救難・防災ヘリの態勢は、長野県警の「やまびこ1号」と「やまびこ2号」、今回墜落した県の「アルプス」の合わせて3機。〈中略〉「アルプス」は、「自前」でパイロットやヘリなどすべてを賄う「自主運航」。運航を民間委託する自治体が多いなかで、防災ヘリの活動は長野県でも重視されてきました。訓練によって高い技術を持っていたスタッフの多くがいなくなりました。唯一のヘリも失くし、同センターは機能しない状態です。2016年の「アルプス」の出動件数は、山岳などでの救助活動87件、山火事への散水などの火災防備12件、大雪などでの災害応急11件など111件に上り、ほぼ3日に1回の頻度。救助は前年比14件増えています。八ヶ岳連峰や奥穂高、北アルプスなど山岳での救助や捜索のほか、大雪や豪雨による孤立地域への物資補給、御嶽山噴火や土砂災害などの調査も行っています。こうした活動では県警と連携することもあり、長野県の救難・防災体制の要でした。〈中略〉今回の事故で人員とヘリを失った影響は深刻です」とあります。

実は、私はこの亡くなった隊員の中の一人（Aさん）と、事故の2週間前たまたま知り合っ



研修現場から爺ヶ岳方面

たのでした。2月18日から19日まで一泊二日で実施された、長野県山岳総合センター主催の「冬山登山の実践（雪洞泊）」雪山研修会で、偶然こ一緒にいたのです。この研修は、長野県大町市の鹿島槍ヶ岳スキー場奥までテントを持たずに登山し、夜は自ら掘った雪洞の中で寝て、翌日下山するという体験研修でした。参加者のほとんどは、雪山登山をする人で、いざという時のビバーク（緊急避難）の一つとして、雪山で吹雪など危険状態になったとき等、無理に動くのではなく雪

洞を掘って、その場を凌ぐ技術を習得したいという理由で参加していました。Aさんはまだ30代で参加者の中で一番若く、はつらつとしていたマッチョな人でした。

消防隊の上司の指示で参加したのではなく、自らの意思で参加したと言っていました。航空消防隊なので、空から救助することが仕事で、まさか雪洞を掘って救助することなどない筈なのになぜ参加したんだらうと、私は印象深く聞いておりました。Aさんの上司も「そんな危険

な命令は出さないから、そんな研修には参加しなくてもいいよ」と言ってくれたとの話でしたが、救急救命士の資格も持っているAさんとしては、救急救命にかかわる全てをマスターしておきたいという強い思いがあつて、参加したかったとのことでした。上司も、最後は熱意に絆（ほだ）されて、参加を承認してくれたと話してくれました。

また、雪国ではない島根県の消防士も2名参加しておりました。この消防士は、登山靴に夏靴と冬靴があることすら知らず、消防隊から支給されていた（夏山）登山靴を履いてきたため、講師から「そんな靴で雪山に来たら死ぬよ」と脅かさ

れていました。この消防士も万が一の救助に備えたい一心で、上司を説得してはるるる車を飛ばして来ての参加でした。このような熱血消防士がいることに、なぜか暖かいものを感じました。

他の参加者（20名ほど）は、全員が雪山で道迷いなどして生死を分けるような瀬戸際に追い込まれた時、自らがどう生き抜くかという技術の一つとして、雪洞を掘る体験をしておきたいというのが動機でした。

技術は頭では理解できても、実際どのようにするのか体験して練習して体の五感に叩き込んでおかないと、いざという時に役に立ちません。雪に穴を掘ってそこに籠って急場を凌げば生きて帰れると、頭では解つていても、どのような場所にとどように掘ってビバーク（登山での野営）するのか、またそれにどの程度時間がかかり、どれくらい体力を使うのか、どのような道具を準備しておかねばならないかなどを、わが身に叩き込んでおかないと、いざという時に動物的な感を働かせた判断ができないものです。

ヘリコプター事故の第一報を報道で知った時は、お気の毒な大事故が起こったなど感じたただけでした。が、数日して新



雪洞外観

聞で亡くなった方の氏名欄と写真をみて、おや!?と思ったのです。似ているお名前が紙面に踊っていたのです。慌てて先の雪洞研修資料を引っ張り出して、参加者名簿を確認しました。その欄に、あの研修で知り合ったまぎれもない A さんの名前があつたのです。A さんがあのヘリコプターに搭乗していて、事故に巻き込まれたんだと、知ったのです。なんとということでしょう。

自らの気持ちの整理がなかなかつかず、事故から 2 週間後、長野県の松本空

港隣の航空消防施設の中にまだ献花台があることを確認し、そこを訪れ献花してやっと気持ちの整理ができました。

人の死は、いつどんな形で起きるかわからないということです。中でも突然の事故死では、残された家族や関係者には多くの意味で大打撃を与えます。大黒柱を失った家族には、精神的にも金銭面でも重大な影響が及びます。せめて金銭面だけでも軽くできないかと、保険技術が開発されたのでしょうか。

生前契約は、まさにこのような突然の場合の作動もあれば、そうでない場合の作動もあるのでしょうか、会員は確実に訪れる「死」を、生前からきっちり受け入れ、死に至るまでのプロセスから死後の整理までをイメージし、そのセーフティーネットとしてりすシステムを選択し、全てを託しています。

この悲報に接するにあたり、改めてこの仕組みの重要性や有難さを認識しました。

あろうことか、あるセーフティーネットが破産しました。こんなことは断じてあってはならないことです。まだまだ規制などされていないからだという言われ



雪洞内

方もされますが、そうだからこそ志を高く持った自主基準や自浄力を備えて、世の中の指弾を受けない態勢作りが極めて重要です。

そんなことを消防士の事故死から感じました。亡くなられた隊員の皆さんのご冥福をお祈りします。まだ、ご家族ご遺族、長野県の消防隊が大きな悲嘆に暮れていることだろうと思います。いずれも、なんとか一刻も早く立ち直って欲しいと、強く念じております。

連載コラム

暮らしの中の法律

〈第二回〉

弁護士 長谷川 範子

気になるあの不動産

不動産の関係で心にモヤモヤを抱えている方は多いようです。

今回は、二つの想定事案をご紹介します。

●原野商法の二次被害!?

「将 来高く売れます!」と言われて30年前に買った北海道内の土地をお持ちのAさん。気がかりなのはこの土地のことです。

『その後バブルがはじけ、その土地は開発されることはなく、上水道の敷設はおろか、境界さえはつきりせず、草木が生い茂った原野のまま放置されていま

す。あの土地は将来どうなるのでしょうか……?』との悩みをお持ちです。

原

野商法とは、「別荘地として値上がりする」とか、「まもなく駅が

できて便利になる」などといって、ほとんど価値のない土地を高額で売りつける商法ですが、最近、これらの土地を所有する高齢者の二次被害の報告を多く聞きます。

これは、Aさんのように土地を何とか処理しなければならないと焦る気持ちに付け入る原野商法の被害者を狙った詐欺まがい※の事案です。

(※詐欺そのものとしては事件化されにくい巧妙な手口です)

ある日、Aさん宅に不動産業者を名乗る男から電話がありました。

「ご所有の北海道の土地ですが、400万円で買いたいという方がいらっしやいますので、売却しませんか?」
Aさん「本当ですか?ぜひお願いします!」

不動産業者「分かりました。それでは、売却の前に土地の境界を確定して除草作業などをしなくてはなりませんので、測量費用等の経費として40万円を振り込んでください」

Aさん「わ、わかりました……」

測量費用等の40万円を振り込んだ後、測量の結果を記載した書類や現地を撮影した写真が届きホッとしたAさんでしたが、待てど暮らせど売却の話が進まず、結局土地はそのままです。

そ

こでAさんは、弁護士に相談し、その結果、消費者契約法によりな

んとか測量費用等の40万円を取り返すことができました。測量が行われた事実はあるようですから、本件はいわゆる『詐欺』そのものではありませんでしたが、消費者Aさんに対する説明の中で、本当は400万円で買いたいという人がいないのにと伝えた点について「不実告

知」、測量をすれば土地が売却できると伝えた点について「断定的判断の提供」が認定されたために、Aさんが取消権を行使できたのです。

しかし、回収できたAさんは幸運でした。多くの事案では不動産業者が頑なに返還を拒んだり、連絡がつかなくなったり、連絡がついても業者に返金する資金がなかったりなど、回収は困難なことが多いのが実態です。さらにAさんの場合、40万円を回収できても大変なストレスを抱えることになり、一時体調を崩してしまいました。

さらに40万円という金額も他の消費者被害に比べると比較的少額なため、被害者も「わざわざ手間暇かけて弁護士に頼むほどではない」「測量はしたのだから良しとしよう」とあきらめることも多いようです。業者はそのような微妙な金額を仕掛けてくるのです。

それでは、Aさんはどうすればよかったのでしょうか？

現実には、原野などの土地を買いたがる人がみつかることはほとんどありません。少子化の影響でその傾向は今後ますます

強くなるでしょう。

中には条件により売却の可能性がある場合もありますが、なかなか困難なのが実情です。

仮にどうしても処分したい場合は、近隣に買い取ってもらえないか打診する、他に処分する不動産がある場合には、その処分の際に買主や仲介業者に相談するという方法が考えられるでしょう。

結局、Aさんはこのまま所有しながら、タイミングを見て動くしかないと思われる。仮に処分できないとしてもそのような土地は日本全国たくさんありますし、リゾートマンションなどは管理費、固定資産税などの負担がありま

すが、土地の場合、固定資産税はさほど高くないので、所有していること自体大きなデメリットになることは少ないでしょうから、鷹揚に構えて良いと思います。ただし、別荘地などで管理費が高くて困っているケースの報告もあります。

りすシステム事務局にも「原野についてこんな勧誘が来たのだけど、どうしたらよいか？」との相談が増えているよう

です。うまい話には裏がつきものですから、そのような勧誘には耳を貸さないようにするのが一番です。

●夫婦の共有マンション

奥様の長年の貢献に感謝の気持ちを込めて共有名義としたマンションをお持ちのBさん。実は、Bさんの奥様のCさんは既に15年前に亡くなっていたが、BさんはCさんの相続による名義変更手続きをすることなく、BさんとCさん共有名義のままマンションに暮らしておられます。

『私も高齢者住宅に転居することになったので、このマンションを売りたいのだが、売るには妻Cの名義を何とかしないと売れないと言われました。どうしたらよいでしょうか？』とのご相談です。

本来、15年前にCさんが遺言書をつ

くされた場合には、Cさんの法定相続人全員で協議をして遺産分割をしなければなりませんでしたが、今回のケースではそれがなされていませんでした。15年経ったとしても、遺産分割の

手続きを経なければならないことは変わりません。

そこで、まずはCさんの法定相続人を調査することになりました。

その結果、お子さんのいらっしゃるなかったCさんの法定相続人として、甥姪5名がいることが分かりました。

次に、これらの法定相続人の皆さんに事情を説明する手紙を出し、そ

れぞれの持ち分をBさんに譲ってもらえないかというお願いをしたところ、5名中4名からはすぐにご了解の返事がありました。1名からはなかなか返事をいただくことができません。その方は住民票の住所地にお住まいでないのか、何度手紙を出してもなしのつぶてです。

現地に赴き住所を確認しても、やはりその方は住んでおらず、結局連絡が取れません。このままでは相続の登記はできず、マンションの管理費や税金だけがBさんの負担になり続けることになりました。また、放棄しても良いと返事を下さった4名にも迷惑がかかってしまいました。

そこで、やむを得ず家庭裁判所に『不

在者財産管理人』の選任を申立てることにして、調査結果を添付した申立書を裁判所に提出しました。裁判所は不在者財産管理人に利害関係のない弁護士を選任し、Bさんはその弁護士との間でCさんの遺産分割協議を済ませ、何とか登記の手続きをすることが出来ました。

この手続きにかかった時間は1年間、そして費用は約100万円。

Bさんが『妻が亡くなったときに手続きしておけば、今回の手続きは不要だったのですよね。何事も後回しにすると良いことはありませんね。』とお疲れの様子で語られたのが印象的でした。

特に不動産の相続手続は放置しておく

と権利者にさらなる相続が発生して権利者の人数が増えたり、全国に散らばり連絡の取れない方が出てきたりと良いことはありません。相続登記は早めにされることをお勧めします。

次回も『気になるあの不動産』の続編をお楽しみに。

いす友 おたより 紹介コーナー

S・I様 (埼玉県) より

アスファルトの割れ目

先日ふみ切りで待っていると、アスファルトの割れ目から、小さな花が顔をだしているのに気がついてホッとします。

人生すいすいとはいきません。

いま世の中という入れもの自体が、いびつに歪んでいると、いうことなんじゃないでしょうか。

その入れものは、大量消費社会という入れものです。いまや、福袋くらいしか、買うものがない世の中になってしまいました。

この仕組みが、いまや限界にきてこれようとしている。いろいろな歪みが出てくるのは当然で、公害なんていうのは、そのいちばん大きなものじゃないでしょうか。

この危機を、どうのり越えればいいのか、みんながそれを考えるときです。

新しい日本の国づくりに、とり組んでほしいものです。



皆さんの暮らしの中での出来事や、りすシステムを利用しての感想など、お便り・お写真をお待ちしています。

セコム・ホームセキュリティのご案内

日頃から健康や防犯に気を付けていても、突然何が起こるかわかりません。

りすシステムが推奨する「セコム・ホームセキュリティ」は

24時間365日休みなくあなたの「もしもの時」に対処します。

救急通報・センサーによるライフ監視・防犯・火災・非常通報等に対応し

電話の応答がない場合はセコムの緊急対応員がただちに駆けつけます。

異常があった場合には119番と同時にりすシステムに連絡が入ります。

いのちと暮らしを守るため、ぜひ「セコム・ホームセキュリティ」の設置をお勧めします。



セコム説明会のご案内

【日時】 6月22日(木) 15:00～15:30
7月15日(土) 12:30～13:00
16:00～16:30
7月26日(水) 15:00～15:30

【会場】 NPOりすシステム 北の丸ガラスゲート1F
東京都千代田区九段北1-4-5

【最寄駅】 東京メトロ半蔵門線・東西線・都営新宿線
「九段下」駅(3・5・7番出口)徒歩5分

東京

【日時】 7月12日(水) 10:00～11:00
8月12日(土) 10:00～11:00

【会場】 りすセンター新木場(東京都江東区新木場4-6-13)
【最寄駅】 東京メトロ有楽町線・JR京葉線・高速りんかい線
「新木場」駅よりバス8分

※新木場駅から送迎の用意があります

※参加希望の方はご連絡ください

【日時】 6月23日(金) 14:15～15:00頃

【会場】 西日本支部

大阪市北区東天満1-10-14 MF南森町2ビル4F

【最寄駅】 地下鉄谷町線/堺筋線「南森町」駅徒歩3分
JR東西線「大阪天満」駅徒歩1分

* 談話サロン終了後、セコム担当者が機器の操作方法、契約時や月々の費用、工事について等の説明をいたします。お気軽にご参加下さい。

大阪

【日時】 7月10日(月) 13:00～14:00

【会場】 中部日本支部

名古屋市中村区名駅3-13-28 名駅セブンスタービル1211

【最寄駅】 JR「名古屋」駅徒歩5分

※参加希望の方はご連絡ください

名古屋

説明会参加お申込みは下記までご連絡ください

りすシステム ☎0120-889-443



私たちが
担当します！

坂本 はるか
(さかもとはるか)
アシスタント

■出身地：
島根県隠岐の島
■趣味：カラオケ
ピアノ、旅行
■性格：明るい



急病の時などは、ペンダ
ント型の「マイドクター」
を握るだけで、救急信号
がセコムに伝わります。

土屋 美幸 (つちや みゆき)

■出身地：埼玉県朝霞市
■趣味：季節の植物めぐり
ヨガ、森林浴
■性格：マイペース
素直



室内の人の動きをセンサーで確
認。一定時間動きが確認できな
ければ、異常事態が発生したと判
断し、セコムが対応します。

耳より
情報！

セコム・メディカルクラブ

セコムでは契約された方への生活安心サ
ービスとして「セコム・メディカルクラブ」
を設けています。24時間365日豊富な経験
を持つ看護師が対応する電話健康相談サ
ービスや、医療機関情報の検索サービスなど、
健康に役立つ情報を契約者の方々に提供し
ています。わざわざ病院に行くほどではな
いけれど、健康上のちょっとした不安があ
るときなどこのサービスをご利用ください！

ご自宅でお困りごとやご不安はございませんか？セコム・ホーム
セキュリティで皆様の安心・安全な暮らしのサポートをいたしま
す。使い方はとっても簡単！お気軽にご相談ください。

樋口恵子先生 川嶋辰彦先生 対談式講演会のご案内

「生き方・死に方を考える」シリーズ 第2回

「生と死の『鮮やかなあいさつ』」

講師 樋口恵子 先生

評論家、東京家政大学名誉教授、女性未来研究所所長

川嶋辰彦 先生

NPO草の根国際協力研修プログラム理事長、学習院大学名誉教授

日時 2017年8月8日(火) 対談式講演会 10時～12時
懇親会 12時30分～14時30分

会場 ホテル椿山荘東京 〒112-8680東京都文京区関口2-10-8

定員 200名

お申込み・お問合せ

参加費 5,000円

 **0120-889-443**



川嶋辰彦先生
(生前契約20周年記念式典 特別記念講演会より)

年金給付は少なくなり、介護保険等の負担は増えるという、私たち高齢者にとっては生き難い時代となっています。生き難いのは高齢者だけでなく、私たち高齢者を支える世代の暮らしも、2000年から

今年はこのシリーズの第2弾として、樋口恵子先生と川嶋辰彦先生の対談式講演会「生と死の『鮮やかなあいさつ』」を開催します。
講演会終了後、両先生を囲んで美味しい料理を味わいながら、楽しい語らいの時間をもっていたきたいと思います。

りすシステムの生前契約をご利用の皆さん方は、いずれ訪れる死について前向きに考えに悩んでいる方々だと思います。
りすシステム創立20周年記念事業の一つとして、2014年6月「生き方・死に方を考える」という統一テーマのもと、「輝いて生きる」というシンポジウムを開催しました。

2016年の間に可処分所得が50万円も下がるなど、厳しいものがあります。

お国の借金だって昨年末で1066兆円。たった今生まれた赤ん坊から、ICUで今まさに臨終を迎えんとしている人までを含めた国民1人当たりの借金は、840万円だそうです。

焦土と化した我が国土復興のため、骨身を削って働いて、世界第3位の経済大国にまで作り上げた主役は、現在の高齢者、そして世界一の借金まみれの国にしたのも高齢者です。この時代責任を、どう考えれば良いのか…。

樋口・川嶋両先生に、そんな歯に衣着せぬ本音のお話を聞かせていただきたいと念じています。

多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

功德院責任役員 もやいの会事務局長
りすシステム創始者 松島如戒



樋口恵子先生
(「戦後70年、私の遺言」出版特別記念講演会より)

なんでも談話室だより

東日本支部 4月18日(火)

天気予報によれば、午前中、雨風強く、午後は曇りで陽も射す。私でも言えそう。「雨、風曇りで晴」何と散り始めた桜を一気に吹き飛ばし、晴れやかな朝を迎えた。

11時から、りすシステムの生活支援アドバイザー山崎から、体に優しい食物の話。①メ類、②コマ類、③ウカメ類、④マゴニワヤサイヨ」の頭文字に関する食物は、老いにも優しいと。

次は介護保険。今後どうなる？老人は増える。介護に関する人は足りない。厭でも一年に一つ年を重ねる。言えるものなら「パスします」と言いたい。そこへ、正確な腹時計が時を告げる。持参のお弁当色々。「ローソンへ行つて来る」など調達方法はさまざま。

午後はりすシステムの小池から、サポートに関わるいろいろが話される。初参加の方も、やっぱり来ちゃった方も、聞きたい！知りたい！と話は飛び交う。自分で選んだ施設で今「お試し期間」を過されている方が「安心」と「不安」を話されると、頷きながら聞き入る。

今日もまた4時間が「アッ」という間でした。

東日本支部 5月18日(木)

いつもより集合が早い。「始めましょう」と挨拶しちやつた！(こんなの初めて…)「目に青葉」の季節でまず「眼の健康」。徐々に見えなくなる不安や不便さにイライラ。実際に不自由な生活をされる方に、どの様なサポートが出来るかとスタッフの小池から思考試行の話。夏に向かって「光」にも気配りを…。

次はお布施。生前契約で企画書を作成した時は、お寺とも話をして必要な費用を計上したのに、いざその時になって戒名や読経のお布施が値上がりした。一同深刻に受け止める。いざその時、世の中はどうなってるの？

生活支援アドバイザーの山崎からは、「生前事務受託規定」の書類を使って、自立の時と、介護を受けている場合の、りすの役割など詳細な説明があった。

そこへ丁度顔を見せた、経理担当の西村から、連休中のインド旅行の話をしてもらい、質問が飛ぶ。西村は、確定申告や0がたくさん並ぶお金の話で「困った時」の強い味方。

いつものお食事タイムとあれこれお役立ち話で、今回も楽しく時間が過ぎていきました。

りすシステム 生前契約スーパーバイザー

黒澤淑子

《お知らせ》

どの支部の行事でも参加できます。
事前に連絡の上、ご参加ください。

東日本支部

相談会

暮らしのよろず相談会

▽日時：7月20日(木) 10時～16時

8月20日(日) 10時～16時

▽会場：北の丸ガラスゲート1階

▽担当：

森 妙子(消費生活アドバイザー)

生前契約スーパーバイザー)

松島如戒(不動産コンサルタント)

杉山 歩(NPOりすシステム代表理事)

末藤康宏(りすネット不動産事業部)

宅地建物取引士

福祉住環境コーディネーター)

▽締切：一週間前までにお申込みください

東日本支部

法律相談

▽日時：7月18日(火) 13時～15時

8月22日(火) 13時～15時

▽会場：北の丸ガラスゲート5階

▽担当：長谷川範子弁護士

▽締切：1週間前までにお申込みください



東日本支部

見学会

りすセンター新木場 見学会

▽日時：7月12日(水) 13時30分～

8月12日(土) 13時30分～

▽会場：りすセンター新木場

▽締切：前日までにお申込みください

※新木場駅から送迎の用意があります

※Ai(死亡時画像診断)装置の見学もできます

西日本支部

談話サロン

▽日時：6月23日(金) 12時～14時

7月23日(日) 12時～14時

▽会場：西日本支部事務所

▽参加費：500円(軽食をご用意)

▽締切：2日前までにお申込み下さい

西日本支部

法律相談

▽日時：7月19日(水) 13時～15時

8月はお休みです

▽会場：西日本支部事務所

▽締切：一週間前までにお申込みください

大分支部

サロン

会場は屋上庭園の見えるレストランです。
美味しいお食事とおしゃべりで、暑さを吹き飛ばしましょう！

▽日時：7月22日(土) 11時30分～14時

▽会場：レストラン「庭の食卓・四季」

JR九州ホテル

ブラッサム大分8F

▽参加費：2000円

メニューは4種類から選べます

▽締切：7月20日(木)

※参加ご希望の方に

詳細を連絡します



レストラン「庭の食卓・四季」HPより



～ 総 合 案 内 ～

参加ご希望の方に
詳細をご連絡します

105 周年記念 日本水彩展 地方巡回展 鑑賞会

東京・上野の日本水彩展後に行われる地方巡回展。こちら昨年に引き続き、福井大海先生にご案内いただきます。わかりやすくウィットに富んだ先生の解説を聞きながら、一枚一枚じっくりと鑑賞出来る貴重な鑑賞会です。ぜひご参加ください。

仙台展 7 月 3 日 (月) 13:00 ～

会場：せんだいメディアテーク (仙台市)
締切：6 月 30 日 (金)



名古屋展 7 月 22 日 (土) 13:00 ～

会場：愛知県美術館 (名古屋市)
締切：7 月 20 日 (木)



広島展 8 月 11 日 (金) 13:00 ～

会場：福屋八丁堀本店 (広島市)
締切：8 月 8 日 (火)



京都展 9 月 9 日 (土) 13:00 ～

会場：京都市美術館 (京都市)
締切：9 月 1 日 (金)



※参加費：1000 円

※ 1 時間ほどの鑑賞会の後、お茶会を予定しています。

※詳細は参加者に別途ご案内いたします。

※りすシステムの杉山代表も
全会場に参加します

－ 例会報告 － 西日本支部 春の例会 4 月 11 日 (火) 万博記念公園

参加いただいた F・M 様より
お便りをいただきました



昨日はいろいろとお世話いただきありがとうございました。

お天気には恵まれませんでした、桜は満開で十分に愛でることが出来ました。万博公園内一周は良かったと思いました。

初めての参加でちょっと心配していたのですが、皆様とお話がはずみ、お陰様で楽しい一時でした。



支部



活動記

北海道・北日本支部

▼新年度を迎え、世間では転勤や引越、入社式など慌ただしい時期が過ぎていきました。今回はケアマネージャー（以下ケアマネ）の転勤を巡って不安を抱えてしまったKさん（女性・86歳）のお話です。

ケアマネの仕事の一つに、介護保険サービスの内容を被保険者（利用者）と話し合い、必要なサービスを決めていく業務があります。これをケアプランの作成といいます。このケアプランの作成や見直しなど、ケアマネの仕事に対する費用は介護保険で賄われており、利用者の自己負担は一切ありません。

さて、今回のKさんのケースですが、今までお世話になっていた居宅介護支援センターのケアマネの転勤が決まりました。転勤にあたり、このケアマネが別の事業所のケアマネを紹介し、Kさんも了承のもと引継ぎを行いました（この引継ぎの際、Kさんよりシステムの同席は不要とのことでした）。引継ぎの結果、介護サービス内容について特に変更はありませんでした。

ところがKさんは「これからいくらお金がかかるのだろう」と不安になってしまいました。介護サービスの内容はこれまでと変わりありませんし、もちろんケアプランの作成・見直しにおいて、ケアマネからの費用の請求はありません。

Kさんには、りすシステムからあらためて、自己負担はないことを説明しました。

ケアマネとの信頼関係を築くまでに時間がかかることは理解できますが、介護保険制度についての説明が足らず、信頼関係を損なわれたことは残念だと思いました。

ケアマネとの関係や介護保険サービスについて、不安な点やわからないことがありましたら、りすシステムのアドバイザーにご相談下さい。

東日本支部

▼医学生などの解剖実習用として、大学の医学部や歯学部、自分の遺体を無条件・無報酬で提供する『献体』を希望する方が近年増加しています。

1983年に献体に関する法律が定められた当時、1万人台にすぎな

かった献体登録者数は、2013年の時点で25万人を越えました。死生観の多様化や、献体の意義について理解が広がったことが増加の理由として考えられます。

献体登録者が亡くなると、登録先の大学が遺体を引取りに来てくれますが、その際、遺族2名の承諾が必要です。また死後48時間経過しないことを条件に、通夜・葬儀を行ったあとで献体を行うことが可能な大学もあります。

りすシステムの利用者でも献体を希望される方は多いのですが、気をつけていただきたいのは、献体には遺族の承諾が必要という点です。これは死体解剖保存法の第七条に定められています。

4月に亡くなったFさんも献体を希望していましたが、登録していた親族の一人が海外に居住、もう一人も高齢であったため、48時間のタイムリミットを過ぎてしまい、献体の希望を叶えることができませんでした。

不献体（献体が不可能になっしまうこと）を未然に防ぐには、りすシステムのことや、献体登録している旨を親族に十分説明して理解いただき、万が一の際には、りすシステムが迅速に親族と連絡が取れるようにしておいていただく必要があります。

す。また承諾してくれる親族がいな場合でも、あらかじめ大学へ事情を説明することで、何らかの対策をしてもらえることもあります。

大学によつては献体者用の納骨堂を設けているところもありますが、納骨堂はどうしてもお骨の返還先がない場合に使用されるもので、原則お骨は遺族のもとへ返還されます。

さらに献体登録者が増えたことで、受け入れる納骨堂がいっぱいになっているのが現状です。自分のお墓を買うかわりに、納骨を目的として献体を希望する人もいるそうですが、『医学に貢献するため無条件・無報酬で自己の遺体を提供する』という献体の本来の趣旨に反していると言わざるを得ません。

献体を検討している方は、親族の理解を得ておくことに加えて、不献体になった場合はどうするか、献体後の納骨場所についても併せて考えておく必要があります。また献体の条件は各団体や大学で異なりますので、献体登録されている方も、今一度内容を確認してみたいいかがでしょうか。

中部日本支部

▼大腿骨骨折で入院、手術をしたYさん（女性・84歳）。術後1か月でリハビリテーション

病院に転院し、退院後は今まで入居していた施設の介護棟へ落ち着きました。その間約4か月、手術の痛みに耐えてリハビリも頑張ってきました。骨折は「寝たきりの始まり」と言われますが、Yさんはリハビリの甲斐もあり、杖は必要なものの自立歩行できるまでに回復しました。今は施設の診療所で、筋力が低下しないよう週2回のリハビリを継続しています。

また昨年の夏に自宅で倒れ救急搬送されたSさん（女性・92歳）。入院中から「トイレだけは自分で行きたい」とおっしゃっていました。毎月の定期訪問で様子を伺っているのですが、先月の訪問時に「一人でトイレに行けるようになったのよ」と手すりや壁を伝いながらトイレまでの行き方を実践してくださいました。「寝たきりになってしまふのでは…」と退院時に心配していたことが嘘のような回復ぶりです。

YさんもSさんも、ご自身の身体についてしっかりと向き合って現実を受け止め、多くの努力をしてきた結果、思い描いていた「現在」があります。

信念や気力の大切さなど、Yさん、Sさんの前向きなお姿に、スタッフ一同励まされました。

西日本支部

▼「なんとか一人で自宅での生活を頑張っています」。ときどき支部事務所に顔を見せてはおっしゃっていたTさん（84歳・男性）ですが、ある日、巡回中の民生委員から救急搬送された旨の連絡が入りました。弟さんご夫妻も駆けつけてくれましたが、お住まいが遠方のため「後のことはりすシステムに任せたい」とのこと。

病状は手術を要するものでしたが、高齢であることから命の危険が伴いますという医師の説明に「もともと助からなかったかもしれない命なので、万が一のことがあってもいい」と、Tさんは手術を選択。そのTさんの選択は正しく、手術は無事成功しました。その後はリハビリを兼ねて転院、自立を目標にソーシャルワーカーと打ち合わせを行っていました。

ところがTさんに次第に認知症の傾向が現れ、病院の相談員や、訪問したりすシステムのスタッフにまで暴言を吐くようになり、病院からこれ以上の入院は無理と断られました。老人ホームなどは断固拒否、自宅で過ごしたいというTさんの強い希望もあったため、とりあえず退院し、自宅に戻りました。

しかし、自宅での生活が困難であることは明らかです。荒唐治とはなりませんが、実際に家に帰れば自活は無理だと気づいてくれるのではないかと。包括支援センター、ケアマネ、民生委員とりすシステムの4者が見守るなか退院しましたが、退院後2日目に転倒。それを期にTさん自身、自宅で生活することが困難だと気づいたでしょう、サービス付高齢者住宅の体験入居の勧めに、今度はすんなりと頷いてくれました。

入居当初は新しい生活になれない様子でしたが最近「ここのご飯は美味しい」とおっしゃるなど、少しずつ落ち着きを取り戻してきているようです。

今後は入居手続きや自宅の片付けなどを進めていく予定です。

緊急なサポートを要する事態が起きて、公正証書契約が完了しない限り、りすシステムが家族の役割を果たすことはできません。身体的な理由等で外出が困難な方も、出張面談や公正証書の出張作成がありますので、ぜひご相談ください。

中国支部

▼「転勤することになり、弟の面倒を見ることができなくなった」。新年度を迎え、転勤や異動で忙しくなる頃、Aさんのお兄さんからこんな相談を受けました。

Aさんは60歳。3度目の脳梗塞を発症し、現在は病院でリハビリ中とのことでした。お兄さんは「弟は6月に退院するので、病院の支払い代行、自宅までの移動、今後のヘルパー

の対応についてなど、さまざまな用事を手伝ってほしい」と急いでおられたため、早速ご自宅へ出張説明に伺いました。

Aさんとお兄さんは、熱心にこちらの説明に耳を傾けてくださって、その場で申込書を完成させることが出来ました。またステップアップに関する説明や、必要となる書類の手続きがスムーズに行えるよう、手助けをさせていただきました。公正証書作成は公正証人に自宅に来てもらう、出張作成にすることが決まりました。

九州支部

▼Nさん（98歳・男性）とは長いお付き合いになります。

大正生まれのNさんは、4年程前に四国から九州に引っ越して来ました。四国では奥様を亡くし、1人で広いマンションにお住まいでしたが、甥御さんの紹介で北九州市のサービス付き高齢者向け住宅に入居

されました。身元引受保証人は甥御さんでしたので、りすシステムは緊急連絡先を受託しました。

しかし、しばらく住んではみたものの、家財の多さで息苦しさを感じるようになったNさん。「せっかく探してくれた甥には申し訳ないが、広いホームを探してください」とりすシステムに依頼があり、広さや交通の便などからご希望に沿った施設のパンフレットを送付しました。検討の結果、その中の有料老人ホームの見学に付添いました。

高い所は苦手と言っていたNさんでしたが、いくつかの部屋を見学し、部屋の向きや家財の配置を考えながら何度も見て回り、最終的に、そのホームの5階に気に入ったお部屋を見つけることができました。

新しい場所での暮らしにすぐに慣れたNさんは、食事の時は、いのいちばんに1階のダイニングへと向かいます。りすシステムの緊急カードを常に首にかけ、揺れる黄色のストラップがとても印象的な方と評判でした。

3年が経過し、その間りすシステムは病院への受診の付き添いや手術の立会い、書類の見直しなどで定期的な訪問を行いました。1階のダイニングへの移動が難しくなったため、しばらくはお部屋への配膳サー

ビスを受けていましたが、その後は同じ施設の介護棟へと移りました。

現在は、ご自分の意思で緩和ケア病棟を希望され入院中です。加齢とともにお住まいを移ってきたNさん。病院やホームと連携をとりながら、今後もサポートを継続していきます。

大分支部

▼今回はSさん（女性・86歳）からいただいたお手紙をご紹介します。

『私は国東に建てたこの家で人生を終えるつもりだった。男女の平均寿命からすれば夫のほうが先に亡くなるだろう。その後は一人、好きな庭を眺めながら悠然とその時を迎えようと思っていた。』

しかしある時、夫よりも先に自分が亡くなる可能性があることに気がついた。

北海道出身の夫と東京で結婚し、一男一女を育てた。教職を退職後、すでに夫の両親は他界していたため、私は夫を説得して母の実家の跡地に家を建て、そこで25年間暮らししてきた。

そんなこの地に夫を一人残して先に死ぬなんてー。

りすシステムのアドバイザーさんに相談し、大分市内の介護付き住宅に引っ越すことに決めた。

第一希望の施設はすでにいっぱいだったが、運良く別の施設が見つかった。一度見学して二度目には入居を決定。夫も同行して契約の署名を終えた。

引っ越しを3月3日と決め親戚の手伝いを得て荷造りを始めた。

ところが引っ越し前にかかりつけの医師に受診したところ、胃潰瘍が発覚した。心不全の徴候もあるとかで、折しも引っ越し見舞に大分市から来たばかりの弟夫婦の車で、病院へ急送されることとなった。

翌朝、病院のベッドに縛りつけられたまま、りすシステムのアドバイザーさんに電話をした。事情を話し、介護が必要な夫を一時的に預かってもらえるところはないかと相談した。時をおかず彼女からの返答は、予約している施設に先に入居してはどうかとのこと。即、手続きをお願いした。

彼女はその日のうちに国東へ急行してくれた。運送屋さんを手配し、まずは夫の身の回りの家具、荷物のみを運ぶとのこと。夫は理解できぬまま事態に流されていたが、いざ家を出るとなると頑として聞かなかつたという。翌日、彼女と片道2時間かけて迎えに来てくれた施設長の2人で夫の説得にあたった。「奥様が退院して帰られる所はここ（国東）

ではなく大分の施設ですよ」と。なんとか車に乗せ、途中かかりつけ医のスタッフの方々の見送りを受け、国東半島の美しい海岸線を惜しみつつ、無事、大分の施設へ入所したとのこと。

しばらくしてようやく私も退院することができた。

大分市の新居に移ってからしばらくは段ボールとの格闘が始まる。自分で荷造りしたものではないので、捨てるはずだった物が丁寧に包まれていたり、大切な物が見つからなかったり。

しかし入院時すっかり忘れていた「大切な貴重品袋」は、病床からの電話でりすシステムのアドバイザーさんに探してもらい、預かってもらっていた。これは親戚や他人に頼めないことだった。

いやあ、私はりすシステムを選び入会したことはもちろん、信頼できるアドバイザーさんに出会えたことに深く感謝申し上げます。』

Sさん、お手紙をありがとうございます。弟さんご夫婦や転居先の施設長さんなど、周りの方々のご協力があつたからこそ無事に転居することができたと思っています。





左胸のロゴマークが
とってもカワイイ
地球に恩返しTシャツ

地球に恩返しTシャツ

カラフルでかわいいロゴ付きの「地球に恩返しTシャツ」
お買い上げ金額の一部を、りすシステムから地球に恩返し基金へ
寄附いたします。ご協力、よろしくお願いいたします。

定 価：2000 円（送料込み） サイズ：S・M・L

カラー：ホワイト・ピンク・イエロー・ライトグリーン・ライトブルー

* 通信販売も承ります。ご希望の方は、
りすシステム 0120-889-443 までご連絡ください。

地球に恩返し運動について

私たちの生命を育んでくれている地球!! このやさしい地球に
少しでも恩返しをして、次世代に美しい地球を残しませんか。
皆さまのご寄附で「地球に恩返しの森」に植樹ができ、銘板に
あなたのお名前が刻まれます。

※匿名希望の方は、振込用紙の「通信欄」に「匿名希望」と、ペンネーム希望の
方は「ペンネーム」を明記の上、「ご依頼人欄」には必ずお名前をご記入ください。

NPO りすシステム
NPO 地球に恩返しの森づくり推進機構

地球に恩返し運動本部

連絡先：TEL.03-5215-2383



地球に恩返し 基金振込先

● 郵便局から振り込む場合

郵便局口座番号：00140-7-743432
加入者：地球に恩返し基金

● 他行からゆうちょ銀行に振込む場合

店名：〇一九（ゼロイチキユウ）
種目：当座 口座番号：0743432
加入者：地球に恩返し基金



「地球に恩返し」基金に寄附をいただき、ありがとうございました。

佐藤 昭彦さん（栃木県足利市）
澤村 初枝さん（東京都板橋区）
鳥井 三朗さん（東京都文京区）
長澤 延子さん（栃木県栃木市）
野口 久枝さん（東京都墨田区）

山口 敏幸さん（神奈川県海老名市）
山口 珠美さん（神奈川県海老名市）
山田 慶子さん（埼玉県所沢市）
渡邊 潔さん（栃木県日光市）



50 音順

※ 2017 年 4 月 21 日 ～ 5 月 31 日現在、9 名の方からご寄附をいただきました。

● なんでも談話室 ●

◎なんでも談話室は、開催時間中ならいつでも自由に参加できます。

北海道支部	日時：7月6日(木)	11時～15時	会場：北海道支部事務所
	日時：8月4日(金)	11時～15時	会場：北海道支部事務所
北日本支部	日時：6月30日(金)	11時～15時	会場：北日本支部事務所
	日時：7月30日(日)	11時～15時	会場：北日本支部事務所
東日本支部	日時：6月22日(木)	11時～15時	会場：北の丸ガラスゲート1階
	日時：7月26日(水)	11時～15時	会場：北の丸ガラスゲート1階
中部日本支部	日時：7月10日(月)	13時～15時	会場：中部日本支部事務所 1211号室
	日時：8月10日(木)	13時～15時	会場：中部日本支部事務所 1211号室
中国支部	日時：7月15日(土)	13時～15時	会場：中国支部事務所
	日時：8月19日(土)	13時～15時	会場：中国支部事務所
四国支部	日時：6月25日(日)	13時～15時	会場：四国支部事務所
	日時：7月25日(火)	13時～15時	会場：四国支部事務所
九州支部	日時：6月29日(木)	13時～15時	会場：九州支部事務所
	日時：7月29日(土)	13時～15時	会場：九州支部事務所
大分支部	※6月の談話室はお休みします ※7月22日(土)はサロンです。詳しくは10ページのお知らせをご参照ください		

● 談話サロン ●

西日本支部	日時：6月23日(金)、7月23日(日) 詳しくは10ページのお知らせをご参照ください
-------	---

● 生前契約説明会・ステップアップ相談会 ●

支部	電話番号	生前契約説明会		ステップアップ相談会	
北海道支部	011-756-4165	5日(1月休み)	13:30～15:00	随時開催	
北日本支部	022-797-2072	2日(1月休み)	13:30～15:00	随時開催	
東日本支部	0120-889-443 03-3511-3277	10日	11:00～13:00	15日	11:00～12:30
			14:30～16:30		14:30～16:00
		24日(3・9月休み)	13:00～15:00		
中部日本支部	052-569-2254	25日	13:00～15:00	随時開催	
西日本支部	06-6809-2289	7日	10:30～12:00	26日	10:30～12:00
			14:00～15:30		14:00～15:30
中国支部	082-568-1585	28日	10:30～12:00	随時開催	
四国支部	089-933-5670	25日	10:00～12:00	随時開催	
九州支部	092-738-2718	24日	13:30～15:00	随時開催	
大分支部	097-538-6263	27日	13:30～15:00	随時開催	

例会・見学会・談話サロン・法律相談のお申込みは…

0120-889-443

生活支援テレホン

0120-332-206

24時間365日いつでも りすセンター 新木場

0120-373-959

(海外からご利用の場合) +81-3-3522-5660